

令和 3 年度全国学力・学習状況調査分析と活用のポイント I

教科に関する調査の結果から授業改善の充実へ

～誰一人取り残さない学びの保障と教員一人一人の授業力向上を目指して～

熊本県教育委員会

1 本県の分析と取組

(1) 教科に関する調査結果の概要

(2) 各教科の結果分析

(3) 今後の取組

2 各学校での分析と取組

(1) 分析の意義とポイント

(2) 分析の方法

①問題分析から授業改善へ

②正答率等の結果から授業改善へ

③同一集団の経年変化から授業改善へ

3 実践編「校内研修での活用」

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
- 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

1 本県の分析と取組

1－（１） 教科に関する調査結果の概要

本県の概要

- ・ 小学校は、**国語は全国平均を上回っており、算数は全国平均とほぼ同じ状況である。**
- ・ 中学校は、**国語は全国平均と同じ状況にあり、数学は全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】	
	国語	算数
熊本県	66%	70%
全国	64. 7%	70. 2%
	【中学校3年生】	
	国語	数学
熊本県	64%	55%
全国	64. 6%	57. 2%

※表中の数値は平均正答率（％），県の値は国から整数値で公表

1－(1) 教科に関する調査結果の概要

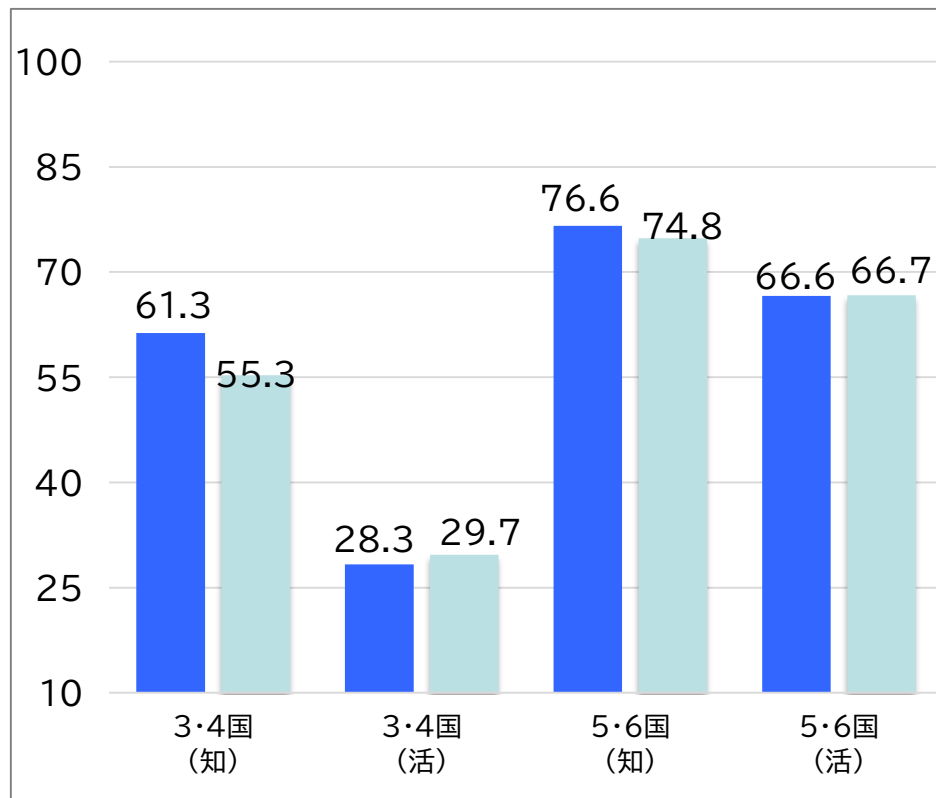
各教科の出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 6ページ以降、問題の内容別で、
（知）や「知識」と記しているものは、①の内容を
（活）や「活用」と記しているものは、②の内容を示しています。

【内容別正答率】

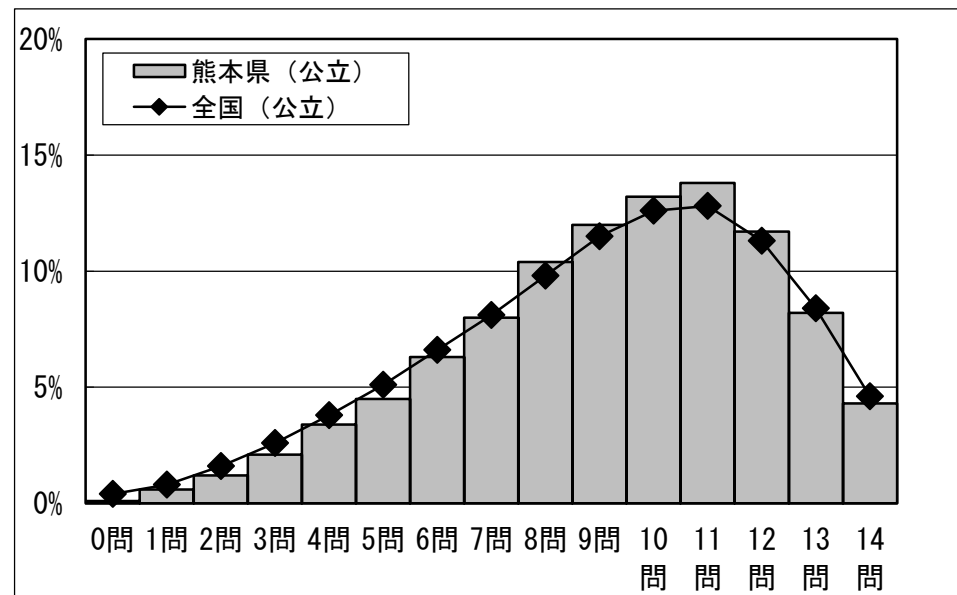
全学調の各小問を、学年と内容別に分け、正答率を算出



■ 本県 ■ 全国

※(知)や(活)の内容については、5ページを参照

【正答数度数分布】



- ・「内容別正答率」から、小学校の国語は、知識よりも活用に課題があり、全国平均を下回っている。特に3，4年生での要約は、28.3%である。
- ・「正答数度数分布」で見ると、8～12問の層の割合が高く、正答数の少ない層と多い層の割合が少ない。

1－(2) 各教科の結果分析（小問別正答率）

小学校国語②

問題 番号	出題の主趣	学 年	内 容	正答率(%)		差
				県	全国	
1	一 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える	5・6年	活用	76.6	77.5	-0.9
	二 資料を用いた目的を理解する	5・6年	活用	74.5	74.9	-0.4
	三 目的や意図に応じ、資料を使って話す	5・6年	活用	81.4	81.0	0.4
2	一 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する	5・6年	活用	76.1	77.6	-1.5
	二 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6年	知識	86.6	87.5	-0.9
	三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける	5・6年	活用	33.3	34.4	-1.1
	四 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する	3・4年	活用	28.3	29.7	-1.4
3	一 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える	5・6年	活用	63.1	64.8	-1.7
	二 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する	5・6年	活用	61.2	56.6	4.6
	三 (1)ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年	知識	79.9	78.3	1.6
	三 (1)ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年	知識	55.1	54.4	0.7
	三 (1)エ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6年	知識	84.7	79.0	5.7
	三 (2)イ 文の中における主語と述語の関係を捉える	3・4年	知識	75.3	67.0	8.3
	三 (2)オ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4年	知識	47.2	43.6	3.6

 全国平均を上回っているもの

 全国平均を下回っているもの

○全国平均を上回っている問題は7問。そのうち、5問は知識を問う内容であり、活用を問う内容は2問である。

○全国平均を下回っている問題は7問あり、そのうち6問が活用で、3二「自分の考えを書く問題」は無解答率が高かった。

成果が見られた内容

- 文の中における主語と述語との関係を捉えること
【問題番号 3三(2)イ】
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
【問題番号 3三(1)エ】※原因(げんいん)
【問題番号 3三(1)ア】※転がって(ころがって)いる
- 目的や意図に応じ、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
【問題番号 3二】

課題が見られた内容

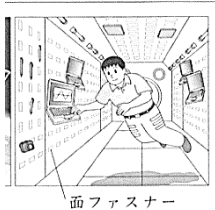
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること
【問題番号 2四】※次ページ参照
- 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること
【問題番号 2三】
- 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えること
【問題番号 3一】

課題となった問題

●2四（本県28.3%，全国29.7%，－1.4）

（略）中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動ぐつでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができ、よさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。



【誤答例】国際宇宙ステーションでの使われ方は書いているが、面ファスナーのよさは書いていない。（県45.7%，全国44.6%）

【資料】の一部

- 四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめたいです。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのですか。次の条件に合わせて書きましょう。
- 〈条件〉
- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われ方について書くこと。
 - 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。

目指す子供の姿

中心となる語や文を見つけて、定められた文字数で端的に要約している子供

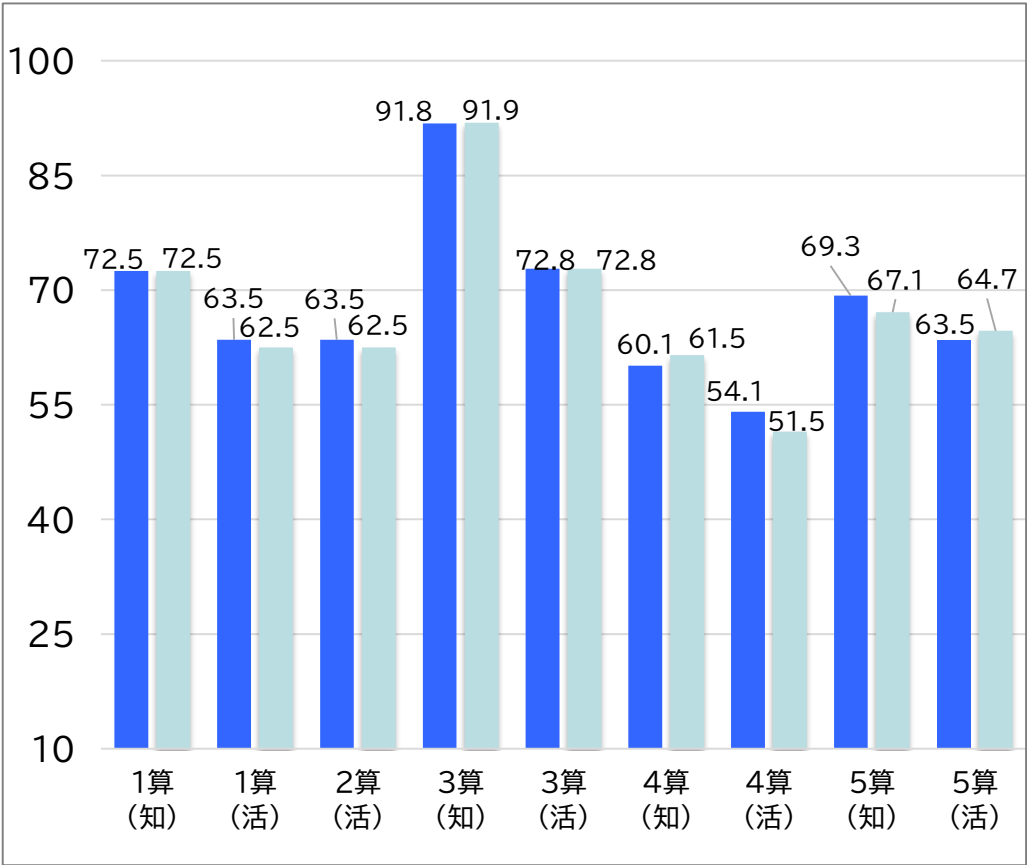
授業改善のポイント

- 〈条件〉に沿って、必要な情報を見付けて要約することについて
 - ・ 文章全体の内容や文章構成を把握した上で、〈条件〉に合う部分の文章の表現をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりして短くまとめる。キーワードや中心文を基に、〈条件〉の文字数に合わせ不要な語句を削っていく。
- 具体的な指導について
 - ・ 要約の学習では、まず題名や繰り返し出てくる言葉などをキーワードを手掛かりに読む。本資料では、〈条件〉に沿ったキーワードは「よさ」「国際宇宙ステーション」「使われ方」である。「よさ」という言葉だけに着目すると、運動ぐつの「よさ」に行き着くので、〈条件〉の「面ファスナー」に着目する必要がある。授業では、何について読み取るのかを意識させるために、条件を板書して手掛かりにし、それが文章全体のどこに書かれているのか、絵や図なども参考にしながら見付ける習慣を育成していく必要がある。

【県学調の類似問題】R2：小学3年大問5（3），小学4年大問5（3）
小学5年大問5（3），小学6年大問5（3）

【内容別正答率】

全学調の各小問を、学年と内容別に分け、正答率を算出

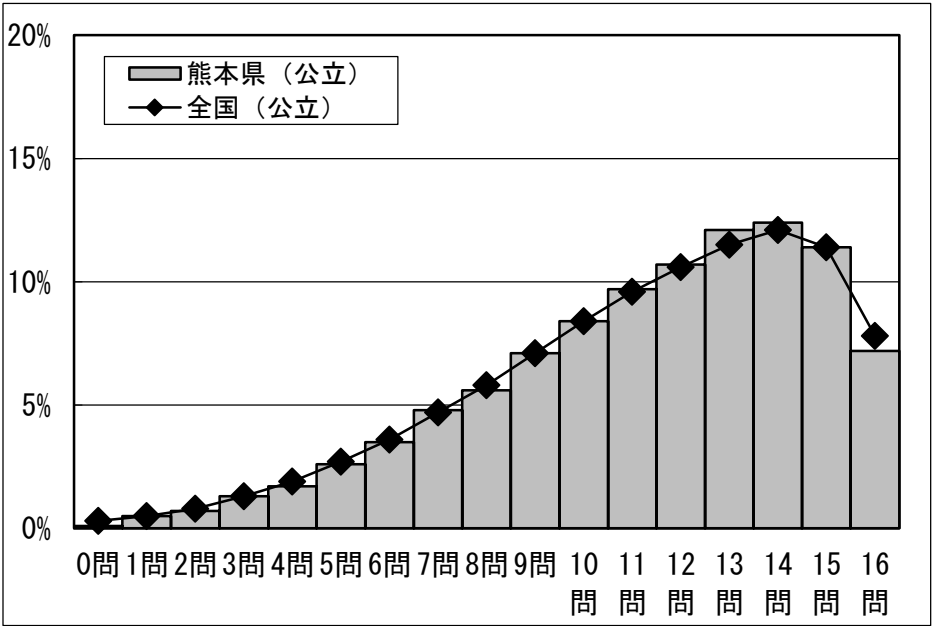


■ 本県 ■ 全国

※(知)や(活)の内容については、5ページを参照

※2年生では、活用に関する問題のみ出題。また、問題によっては、複数の学年にまたがっているものがある。

【正答数度数分布】



- ・「内容別正答率」から、1～5年生まで、知識よりも活用に課題があり、特に5年生は、全国平均を下回っている。
- ・「正答数度数分布」で見ると、ほぼ全国平均だが16問の割合はわずかに少ない。

1－（２）各教科の結果分析（小問別正答率）

小学校算数②

問題番号	出題の主趣		学年	内容	正答率(%)		差
					県	全国	
1	(1)	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1年 2年 3年	活用	63.5	62.5	1.0
	(2)	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる	5年	活用	85.9	86.7	-0.8
	(3)	速さを求める除法の式と商の意味を理解している	5年	知識	56.1	55.8	0.3
	(4)	条件に合う時刻を求めることができる	3年	知識	88.8	89.2	-0.4
	(5)	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる	5年	知識	87.3	85.1	2.2
2	(1)	三角形の面積の求め方について理解している	5年	知識	61.3	55.1	6.2
	(2)	複数の図形を組み合わせた図形の面積につて、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる	1年 5年	知識	72.5	72.5	0.0
	(3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	5年	活用	44.4	46.0	-1.6
3	(1)	棒グラフから、数量を読み取ることができる	3年	知識	96.4	95.8	0.6
	(2)	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる	3年	知識	90.2	90.7	-0.5
	(3)	データを二次元の表に分類整理することができる	4年	知識	64.0	67.5	-3.5
	(4)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	5年	活用	51.7	52.0	-0.3
	(5)	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる	5年	活用	72.0	73.9	-1.9
4	(1)	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる	3年	活用	82.1	83.0	-0.9
	(2)	商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4年	知識	56.2	55.5	0.7
	(3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4年	活用	54.1	51.5	2.6

- 
 全国平均を上回っているもの
- 
 全国平均を下回っているもの

○全国平均を上回っている問題は7問。そのうち、5問は知識を問う内容であり、活用を問う内容は2問である。

○全国平均を下回っている問題は8問あり、そのうち5問が活用で、3（4）、4（3）は無解答率が高かった。

成果が見られた内容

- 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述すること

【問題番号 1(1)】

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すこと

【問題番号 1(5)】

- 三角形の面積の求め方について理解していること

【問題番号 2(1)】

- 棒グラフから、数量を読み取ること

【問題 3(1)】

課題が見られた内容

- 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述すること

【問題番号 2(3)】※次ページ参照

- データを二次元の表に分類整理すること

【問題番号 3(3)】

- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述すること

【問題番号 3(4)】

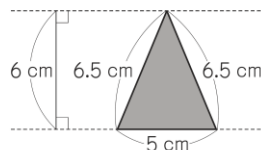
- 集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断すること

【問題番号 3(5)】

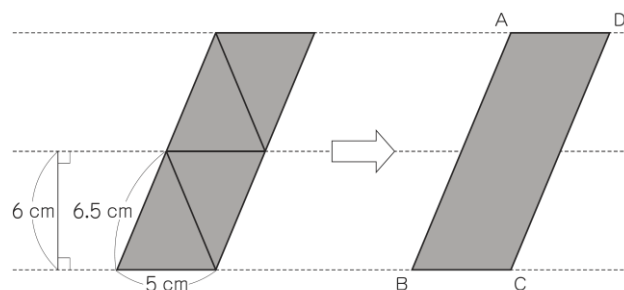
課題となった問題

●2(3)(本県44.4%, 全国46.0%, 差-1.6)

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形A B C Dをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形A B C Dの面積を求めます。

辺B Cを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形A B C Dの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。

また、平行四辺形A B C Dの面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。

【誤答例】・「高さを 6.5cmの二つ分」と捉えているもの（県11.1%, 全国9.6%）

【県学調の類似問題】H30：小学6年大問2（1）

目指す子供の姿

図形の面積を求めるために必要な構成要素を適切に見出し、面積の公式を正しく用いようとしている子供

授業改善のポイント

○ 図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方を説明することについて

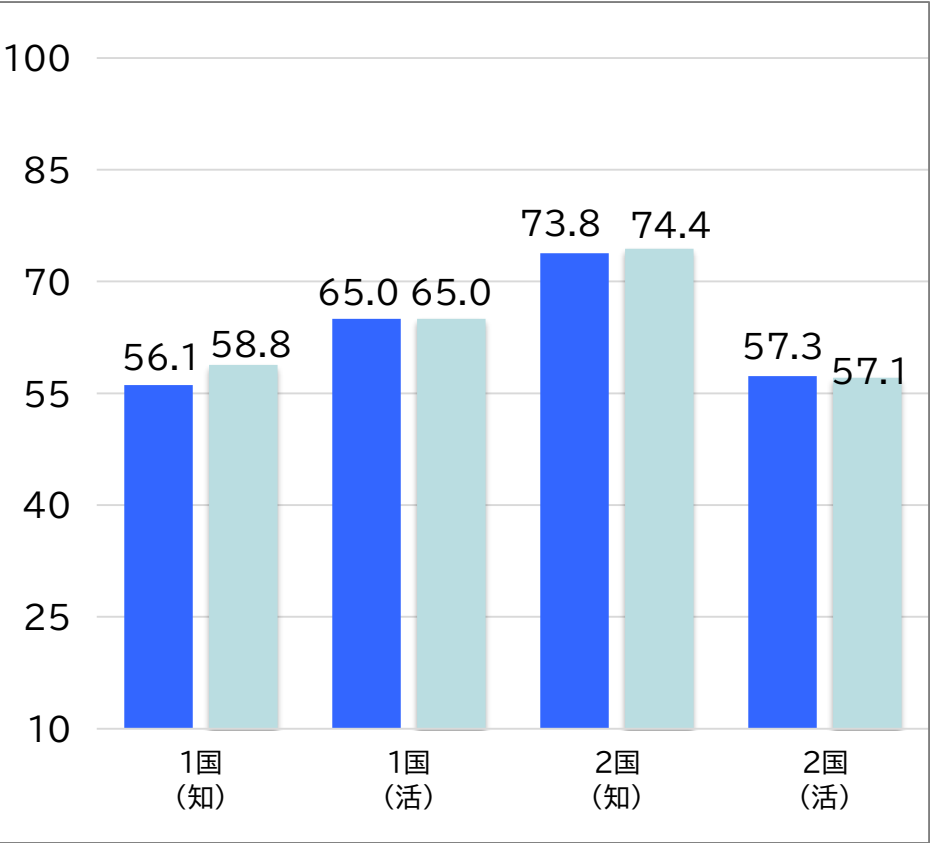
- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積を求めるために、組み合わせる二等辺三角形を構成する要素などに着目し、必要な情報を見いだした上で、平行四辺形の面積を求める公式を用いることが必要である。

○ 具体的な指導について

- ・誤答について、平行四辺形A B C Dの高さを誤って「6.5cmの二つ分」と捉えていると考えられることから、図形における「高さ」の意味を理解できるようにすることが大切である。
- ・面積を求めたい図形の構成要素などに着目し、底辺や高さなどの必要な情報を見いだした上で、求めたい図形に応じた面積の公式を用いることが大切である。
- ・日頃から、基本図形を構成する要素の意味の理解を図るとともに、組み合わせさせてできた図形を構成する要素から、底辺や高さなどの必要な情報を見いだすことができるようにすることが重要である。

【内容別正答率】

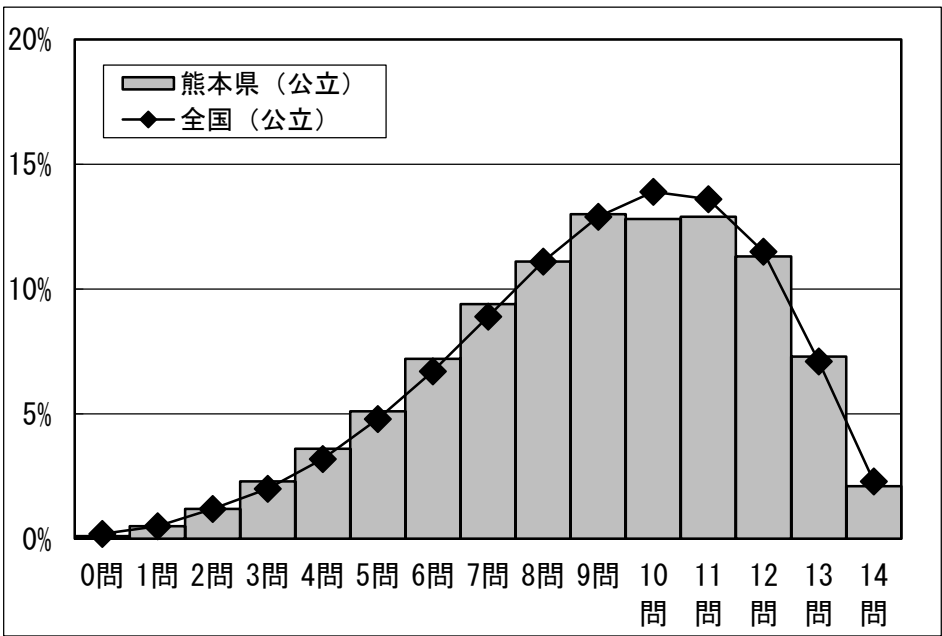
全学調の各小問を、学年と内容別に分け、正答率を算出



■ 本県 ■ 全国

※(知)や(活)の内容については、5ページを参照

【正答数度数分布】



- ・「内容別正答率」から、1年生で身に付けるべき知識は最も低く、全国平均を下回っている。
- ・「正答数度数分布」で見ると、10～11問の層の割合が低く、7問以下の層が多くなっている。

1－（２）各教科の結果分析（小問別正答率）

中学校国語②

問題番号	出題の趣旨		学年	内容	正答率(%)		差
					県	全国	
1	一	話合いの話題や方向を捉える	1年	活用	90.0	89.7	0.3
	二	質問の意図を捉える	1年	活用	92.4	92.5	-0.1
	三	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1年	活用	55.9	57.1	-1.2
2	一	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	2年	活用	25.1	24.8	0.3
	二	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える	2年	活用	75.6	74.5	1.1
3	一	文脈の中における語句の意味を理解する	1年	知識	41.5	43.7	-2.2
	二	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	1年	知識	55.8	58.7	-2.9
	三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	2年	知識	69.1	71.0	-1.9
	四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ	1年	活用	21.5	20.5	1.0
4	①	文脈に即して漢字を正しく読む	2年	知識	97.8	97.5	0.3
	②		2年	知識	85.5	88.8	-3.3
	一	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	1年	知識	71.1	74.0	-2.9
	三	相手や場に応じて敬語を適切に使う	2年	知識	42.6	40.3	2.3
	四	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	2年	活用	71.2	71.9	-0.7

全国平均を上回っているもの

全国平均を下回っているもの

○全国平均を上回っている問題は6問。そのうち、4問は活用を問う内容であり、知識を問う内容は2問であった。

○全国平均を下回っている問題は8問あり、そのうち5問が知識を問う内容である。無解答率は三四、四四など活用が目立った。

成果が見られた内容

- 話合いの話題や方向を捉えること
【問題番号 1一】
- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えること
【問題番号 2二】
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと
【問題番号 3四】
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うこと
【問題番号 4三】

課題が見られた内容

- 文脈の中における語句の意味を理解すること
【問題番号3一】
- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること
【問題番号 3二】※次ページ参照
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること
【問題番号 3三】
- 文脈に即して漢字を正しく読むこと
【問題番号 4一②】※詳細(しょうさい)
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
【問題番号 4二】

課題となった問題

●3二（本県55.8%，全国58.7%，差－2.9）

「果敢彼は、塙壁の欠所に啖喊してきた。」
 「たんとでもねえが、三、四十はとつたろう」とは、得意気なる彼の答えであった。彼はなお語をつづけて、「鼠の百や二百は一人でもいつでも引き受けるが、いたちつてえやつは手に合わねえ。一度いたちに向かつて、ひどい目にあった。」
 「へえ、なるほど」と、あいづちをうつ。
 黒は大きな眼をばちつかせて、いう。
 「去年の大掃除のときだ。うちの亭主が石灰の袋を持って縁の下へはいこんだら、おめえ、大きないたちの野郎がめんくらって飛びだしたと思ひねえ。」
 「ふん」と感心して見せる。
 「いたちつてけども、なに、鼠のすこし大きいぐれえのものだ。こんちきしょうつて気で追っかけて、とうとうどぶの中へ追いこんだと思ひねえ。」
 「うまくやったね」と喝采してやる。
 「ところが、いざつてえ段になると、やつめ最後つ尻をこきやがった。くせえのくさくねえのつて、それからつてえものはいちちを見たと胸が悪くならあ。」
 彼はここにいたつて、あたかも去年の臭気を今なお感ずることく、前足をあげて鼻の頭を二、三ぺんなでまわした。吾輩も少々気のどくな感じがする。ちつと景気をつけてやろうと思つて、
 「しかし鼠なら、君ににらまれては百年目だろう。君はあまり鼠をとるのが名人で鼠ばかり食うものだから、そんなにふとつて色つやがいいのだろう。」
 黒のこきげんをとるためのこの質問は、ふしぎにも反対の結果を呈出した。彼は嘲笑として大息していう。
 「考へるとつたらねえ。いくら稼いで鼠をとつたつて——いつて人間はどつてえやつは世の中にいねえ。人のとつた鼠をみんな取りあげやがつて、交番へ持つてゆきあがる。交番じゃ、だれがとつたかわからねえから、そのたんびに五銭ずつくれるじゃねえか。うちの亭主なんか、おれのおかげでもう一円五十銭くらいもうけていやがるくせに、ろくなものを食わせたこともありやしねえ。おい、人間でもあ体のいい泥棒だぜ。」
 さすが無学の黒もこのくらしい理屈はわかるとみえて、すこぶるおこつたようすで背中の毛を逆だてている。吾輩は少々気味が悪くなったから、いいかげんにその場をこまかして、うちへ帰つた。
 このときから吾輩は、けつして鼠をとるまいと決心した。しかし、黒の子分になつて鼠以外のこちそうをあさつてあるくこともしなかつた。こちそうを食うよりも寝ていたほうが気楽でいい。

線部A「喝采してやる」、線部B「とつた」のそれぞれについて、「吾輩」の動作である場合は1、「黒」の動作である場合は2、「亭主」の動作である場合は3を選びなさい。

【誤答例】・「A『喝采してやる』を誤答」（県7.8%，全国7.0%）
 ・「A『喝采してやる』，B『とつた』の両方を誤答」（県17.8% 全国15.5%）

目指す子供の姿

自分の考えを，根拠（叙述）に基づき，理由（実体験，読書経験，既習内容等）とともに，表現している子供

授業改善のポイント

○ 場面の展開，登場人物の心情や行動に注意して読み，叙述を基に内容を理解することについて

・場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて描写を基に捉える指導を行う際には，機械的に場面を区切り，教師の発問に生徒が答える形で読み進める指導ではなく，個々の生徒が目的をもってより主体的に読むことを促す指導が必要。

○ 具体的な指導について

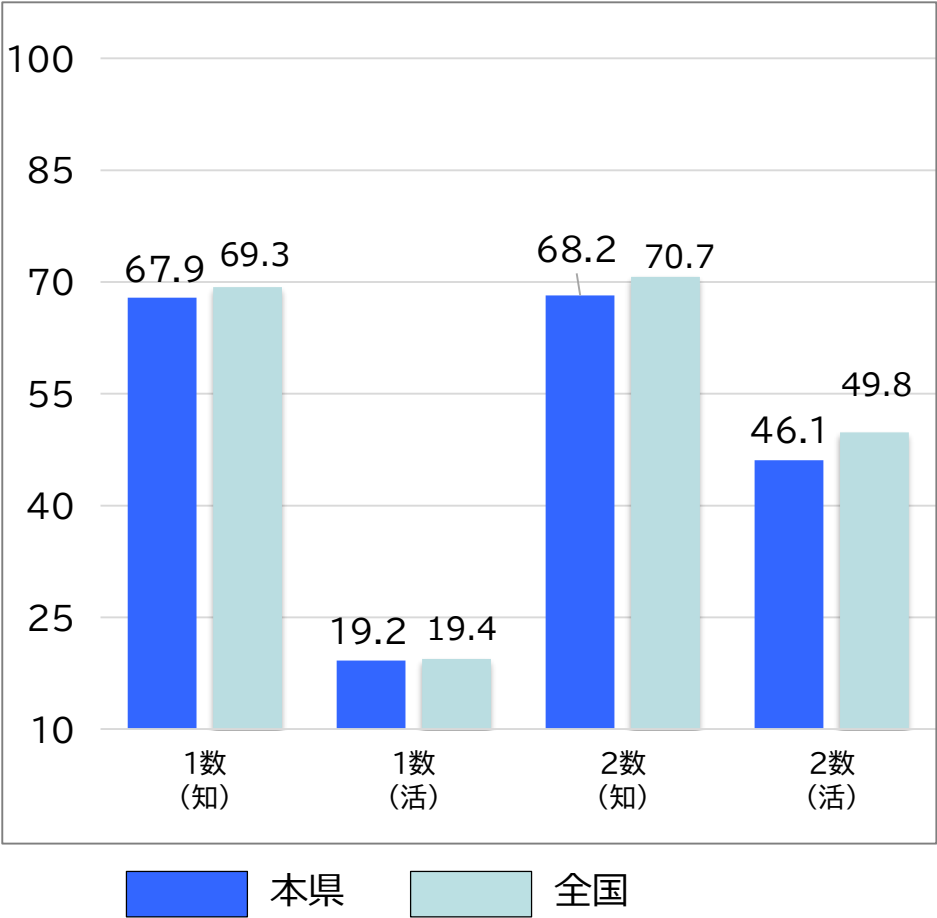
・行動や会話，地の文などの叙述を読み分けながら内容を捉えるよう指導することが効果的である。小学校から継続的に指導している音読の学習経験を踏まえ，全文を音読する際に，役割読み（登場人物ごとの会話文，地の文などに分かれて読み進める方法）などにより，誰の会話なのか，誰の行動を表しているかを捉える指導を行う。

・表現やその作品の背景に着目し，登場人物の行動の意図や意味を捉え，文学作品をより深く読み味わうことで，他の様々な作品に対する興味・関心を喚起し，読書活動へとつなげる指導を行う。

【県学調の類似問題】R2：中学1年大問5（1）（2），中学2年大問5（1）（2）

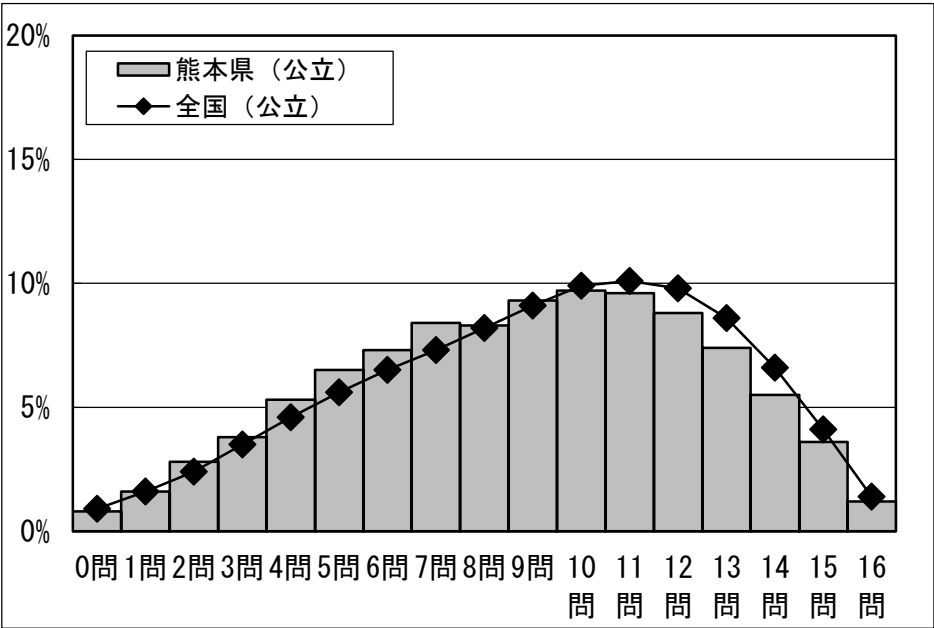
【内容別正答率】

全学調の各小問を、学年と内容別に分け、正答率を算出



※(知)や(活)の内容については、5ページを参照

【正答数度数分布】



- ・「内容別正答率」から、1年生、2年生ともに知識と活用いずれの正答率も全国平均を下回っている。特に活用は大きな課題がある。
- ・「正答数度数分布」で見ると、11問～16問の層の割合が低く、下位層の割合が高い。

1－(2) 各教科の結果分析（小問別正答率）

中学校数学②

問題番号	出題の趣旨	学年	内容	正答率(%)		差
				県	全国	
1	正式の加法と減法の計算ができる	2年	知識	76.1	77.1	-1.2
2	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	1年	知識	68.4	71.3	-2.9
3	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	1年	知識	64.4	68.1	-3.7
4	関数の意味を理解している	1年	知識	47.6	48.0	-0.4
5	与えられたデータから中央値を求めることができる	1年	知識	82.1	84.5	-2.4
6	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2年	活用	83.7	83.9	-0.2
	(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2年	活用	53.7	61.8	-8.1
	(3) 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2年	活用	27.1	30.3	-3.2
7	(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	1年	知識	94.1	93.5	0.6
	(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	1年	活用	27.8	27.7	0.1
8	(1) ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる	1年	知識	82.3	83.0	-0.7
	(2) 相対度数の必要性和意味を理解している	1年	知識	36.1	36.8	-0.7
	(3) データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	1年	活用	10.6	11.1	-0.5
9	(1) 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる	2年	活用	38.7	44.3	-5.6
	(2) 錯覚が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	2年	知識	60.2	64.3	-4.1
	(3) ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	2年	活用	27.3	28.8	-1.5

■ 全国平均を上回っているもの

□ 全国平均を下回っているもの

○全国平均を上回っている問題は2問。14問が全国平均を下回った。

○知識を問う内容、活用を問う内容、どちらにも課題があるが、活用を問う内容では、全国平均を5～8ポイント下回っているものもある。

○無解答率は活用で高く、6(3)、8(3)、9(3)は3割を超えた。共通するのは、文章を読んで解く、読解力が必要な問題である。

成果が見られた内容

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること

【問題番号 7(1)】

課題が見られた内容

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること

【問題番号 6(2)】※次ページ参照

- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明すること

【問題番号 6(3)】

- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

【問題番号 8(3)】

- 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明すること

【問題番号 9(1)】

課題となった問題

●6(2)(本県53.7%, 全国61.8%, 差-8.1)

⑥ 自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数に5をたすと左下の数になっているよ。」

真菜さん「そうなるのは、自然数を5つずつで区切っているからだね。」

優太さん「左上の数を n とすると、左下の数は $n+5$ と表すことができるね。」

真菜さん「右上の数と右下の数も n を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
 9, 10, 14, 15のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
 22, 23, 27, 28のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

説明

n を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n+1) + (n+5) + (n+6)$$

=

【誤答例】・理由の説明に対する式表現になっていなかったり、記述していなかったりするもの（県38.7%, 全国32.1%）

【県学調の類似問題】R2：中学2年大問14（2）

目指す子供の姿

ある事象が成り立つ理由を、文字を用いて、必要な根拠を示しながら、簡潔、明瞭に表そうとしている子供

授業改善のポイント

○ 数に関する事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することについて

・四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和がいつでも4の倍数であることを説明するには、根拠として、計算した式 $4n+12$ を $4(n+3)$ と変形し、 $n+3$ は自然数であることを記述する。その上で、成り立つ事柄として、 $4(n+3)$ は4の倍数であることを記述する。

○ 具体的な指導について

・説明不十分な解答として、「 $n+3$ は自然数である」または「 $4n$ と12がそれぞれ4の倍数である」を記述していないものが多い。記述した内容を振り返り、説明に必要な根拠を十分に示すことができるか確認することが大切である。

・日頃から説明しなければならぬ事柄を的確に把握し、見通しをもった上で、問いに対する筋道立てた記述になっているか、説明が不十分でないかを確認することができるようにすることが重要である。

1－（3） 今後の取組（特に重視すること）

教科に関する調査の結果から、「各学年において、身に付けさせるべき学力が身に付いていないこと」、「知識・技能を活用すること」、「読解力を伴う問題の無解答率が高いこと」などが課題としてありました。小1～中3までのすべての学年での取組みが大切です。

・ 誰一人取り残さない学びの保障に向けて

定着確認の徹底

- ・単元ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかどうか確認し、身に付くまで粘り強く指導する。

読解力向上の取組実践

- ・文脈を理解しながら「読む」、文脈に基づいて自分の考えを「書く」などの取組を各教科において実践する。

※「熊本の学び」アクションプロジェクトより

・ 教員一人一人の授業力向上に向けて

「単元のゴールの姿」に向けた 授業構想と実践

【大切にしていきたい3項目】

- ①単元終了時の子供の姿
- ②単元を通した学習課題
- ③単元で働かせる見方・考え方

※ポイントは、子供たちがゴールの姿などをイメージできる表現になっていることです。

家庭と連携した、 子供が自ら取り組む家庭学習

- ・授業と家庭学習をつなげる
- ・子供のやる気を引き出す
（個に応じた課題、見届けとアドバイス）
- ・職員間で共通理解を図って取り組む

※「熊本の学び推進プラン」より

1－(3) 今後の取組（その他）

熊本県教育委員会では、研修等の実施や資料の提供を行っています。

・誰一人取り残さない学びの保障に向けて

- 熊本県学力・学習状況調査の実施（小学校3年生～中学校2年生）
一人一人にアドバイスや経年変化を示した個人票と課題に応じた学習プリントを提供
- R3「熊本の学び推進プラン」取組事例の提供（R2年度分はHP公開中）
- 「国語学習の手引き」

・教員一人一人の授業力向上に向けて

- 「熊本の学び」スタート・アップ研修の実施（1月まで実施）
 - ・各教科等研修会，中学校区研修等の授業改善，カリキュラム・マネジメント演習など
- 学校支援訪問の実施
 - ・支援を要する学校及び若手教員等の支援
- 「熊本の学び」研究指定校の研究発表
天草市立本渡中学校（11/5），大津町立大津中学校（11/22～オンデマンド配信），
八代市立第一中学校（11/26）
- 全国学力・学習状況調査の資料の提供
- 授業改善のための資料提供
 - ・「学習評価のポイント」，「学習構想案例」，「教科等における見方・考え方」等
- 中学校数学担当を対象とした研修の実施

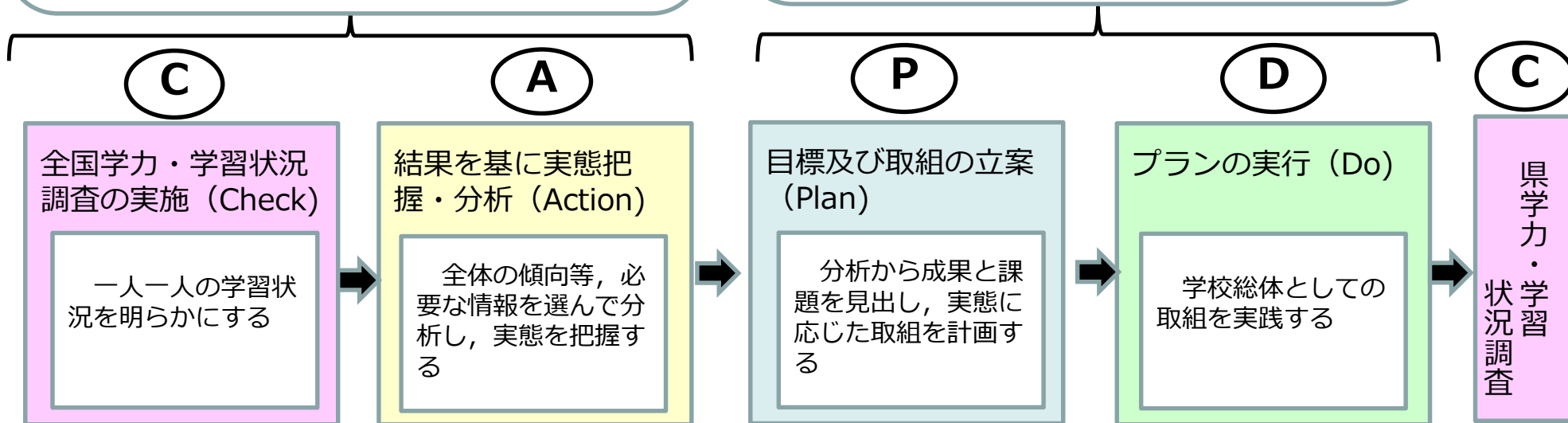
2 各学校での分析と取組

2－（１）分析の意義とポイント

＜分析の意義＞

◇学力調査の結果から、各学校の授業や学びの保障の取組状況が把握できます

◇調査結果を分析し、共有することで、課題解決に向けた授業改善が充実します



結果分析から、自校の「熊本の学び」推進プランや「熊本の学び」アクションプロジェクトに関する取組の成果と課題を見付け、課題改善に向けた取組計画の立案と実践を行いましょう。

2ー(1) 分析の意義とポイント

<分析のポイント>

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

◇質問紙調査の結果から授業改善及び学級経営, 学校経営等の充実へ

全国学力・学習状況調査の結果とともに、**解説資料**と**報告書**は分析と改善の拠り所です。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

方法①：問題分析から授業改善へ

方法②：正答率等の結果から授業改善へ

方法③：同一集団の経年変化から授業改善へ

※「質問紙調査の結果から授業改善, 学級経営, 学校経営等の充実へ」については, 別の資料にて紹介

2－（２）分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

◇問題の分析は、授業改善につながります。

【問題分析の視点】

- ① 「題材」に着目する
- ② 「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 県学力・学習状況調査の類似問題に着目する

次ページから、小学校算数の問題を例に、①～⑤の視点から分析し、授業改善のポイントを示します。

2－（2）分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

①「題材」に着目する

- ・ 身近な事象を扱う
- ・ 日常生活と関連する事象を扱う

授業改善に生かすポイント

○子供たちにとって身近な地域や日常生活に関する事柄を題材として扱い
単元を構想したり、一単位時間の授業を組み立てたりしましょう。

全国学力・学習状況調査の問題には、教科の枠を超えて、授業改善につながるたくさんのヒントがあります。

R3年度小学校6年生算数より

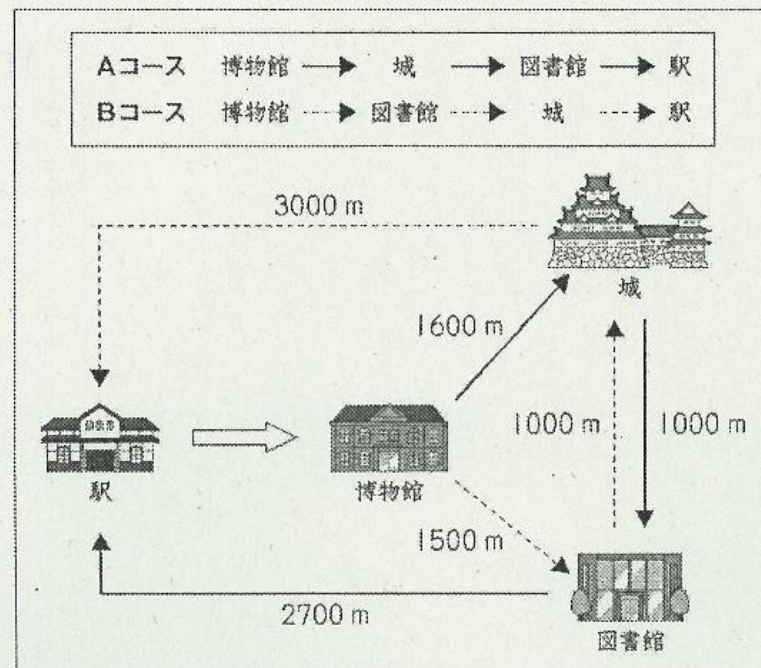
1

「地域めぐり」という問題設定

たけるさんたちは、地域の昔の^{こと}について調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

- (1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。
博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

2つのコースと道のり



2－（２）分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

②「配列」に着目する

- ・ 思考の流れに沿った配列



授業改善に生かすポイント

- 題材を生かす発問や課題の設定を行いましょう。
- 思考の流れに沿って発問や課題を配列しましょう。
- 難易度を考えた、発問や問題の配列にしましょう。
- 解答したことを、次に活用するように配列しましょう。

大問を通して、題材を生かした小問の設定、子供たちの思考の流れにそった小問の配列がなされている。

1

たけるさんたちは、地域の昔の^{もい}ことについて調べるために、博物館と城、図書館へ行きます。

(1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。
博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

2つのコースと道のり

Aコース	博物館 → 城 → 図書館 → 駅
Bコース	博物館 → 図書館 → 城 → 駅

1問目

3000 m
1600 m
1000 m
1000 m
1500 m
2700 m

たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。
Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

(2) たけるさんたちは、駅から7分間歩いたところで、「博物館まで1000 m」や「駅まで500 m」と書いてある看板を見つけました。

2問目

道のり 500 m 1000 m
時間 7分間 分間

500 mを7分間で歩く速さで歩き続けると、1000 mを歩くのに何分間かかりますか。
答えを書きましょう。

平易な1問目から、少しずつ難易度を高くしたり、前の小問の解答を活用して次の問題に取り組んだりといった配列がなされている。

2 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

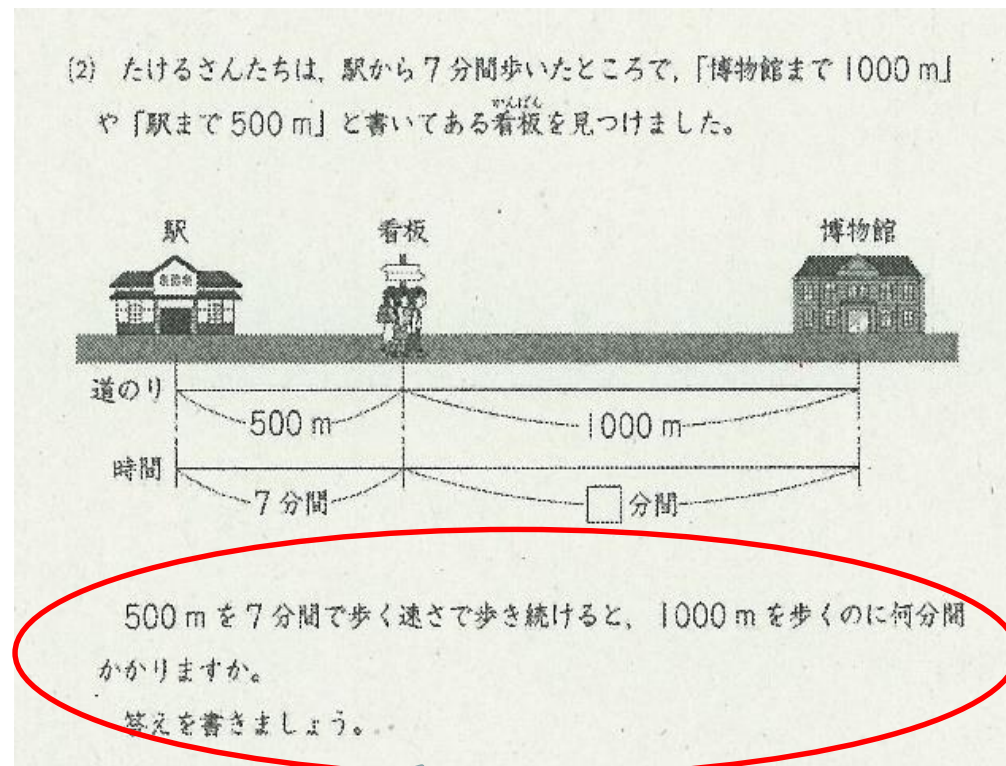
③「問い方」に着目する

- ・ 簡潔で具体的な問い方
- ・ 1文に1つの指示や発問



授業改善に生かすポイント

- あいまいな発問にせず，教科等の見方・考え方を働かせるような具体的な発問にしましょう。
- 一度に，いくつもの指示や発問を行わず，一つの指示のあとに，きちんと子供の状態を見取り，把握した上で，次に進みましょう。



「どれくらいかかりますか」ではなく、「何分間かかりますか」と具体的に問うことで、子供は答えやすくなると同時に、「**時間という数量**」に**着目して考える**ことにもつながります。

2 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

④「解答類型」に着目する

- ・ 誤答を予想



授業改善に生かすポイント

- 子供たちのつまずきから、指導の改善を図りましょう。
- 一時間のゴールや単元のゴールを明確に把握しましょう。

解説書では、設問毎に「解答類型」と「解答類型について」が記載されており、予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等が記述されています。

解答類型

問題番号	解答類型	正答
① (2)	1 14 と解答しているもの	◎
	2 21 と解答しているもの	
	3 2 と解答しているもの	
	4 3.5 と解答しているもの	
	5 9 と解答しているもの	
	6 10 と解答しているもの	
	7 0.014 と解答しているもの	
	8 $500 \div 7$ の商を書いているもの	
	9 $500 \div 7 \times 1000$ の計算結果を書いているもの	
	1000 と解答しているもの	
	10 500 と解答しているもの	
	7 と解答しているもの	
	99 上記以外の解答	
	0 無解答	

■解答類型について

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いることができるようにすることが大切である。
そこで、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することを求めた。
本設問では、道のりと時間について、道のりが2倍になっていることを基に、時間も2倍することが必要である。
- 【解答類型1】は、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができている。
- 【解答類型2】は、道のりと時間の関係に着目することはできているが、誤って、駅から博物館までの道のりである1500mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。
- 【解答類型3】は、道のりについて、1000mが500mの2倍であることを見いだすことはできているが、そのまま2と解答していると考えられる。
- 【解答類型4】は、道のりについて、1000mが500mの2倍であることを見いだすことはできているが、7分間を2で割っていると考えられる。
- 【解答類型5】は、道のりについて、1000mが500mの2倍であることを見いだすことはできているが、7分間に2を足していると考えられる。

2－（2）分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

⑤県学力・学習状況調査の類似問題に着目する

授業改善に生かすポイント

○題材や問い方を授業づくりの参考にしてみましょう。

○問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認しましょう。

R3年度 小学校6年生算数より

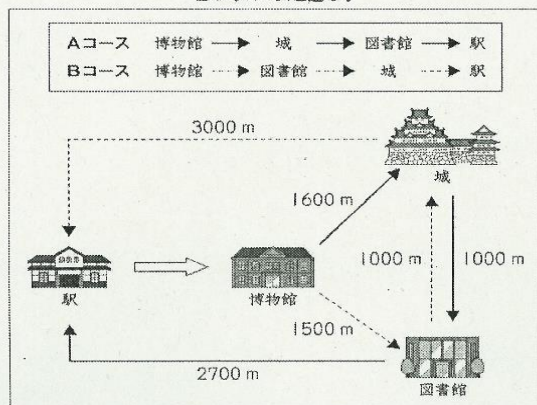
1

たけるさんたちは、地域の昔のことについて調べるために、博物館と城と図書館へ行きます。

(1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。

博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

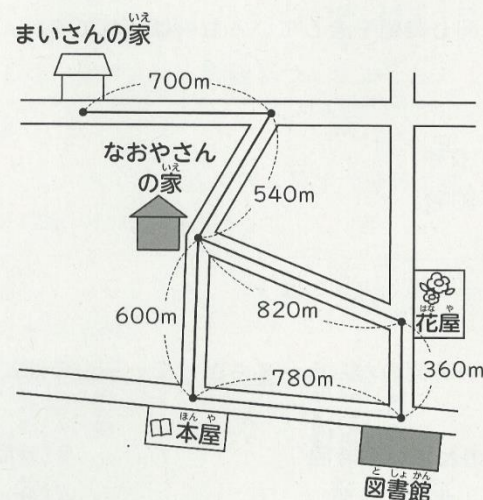
2つのコースと道のり



R2年度 県学力・学習状況調査問題(小学校3年生算数)より

10

次の地図で、なおやさんは、花屋の前を^{はなや}通って^{としょかん}図書館に行きます。
なおやさんの家から^{いえ}図書館までの道のりは、何km何mですか。②



2－（2）分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

◇「問題分析の視点」は、**定着問題**や**定期考査の作成**にも役立ちます。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 県学力・学習状況調査
の類似問題に着目する

問題を，該当学年での定着確認やレディネステストに活用することも考えられます。

また，定着問題や定期考査などの作成の際に，「題材」，「配列」，「問い方」を参考にすることができます。

2－（2）分析の方法②「正答率等の結果から授業改善へ」

◇正答率等の分析は、授業改善につながります。

【分析の流れ】

- ① 成果と課題を洗い出す
- ② 学校全体で課題となるような「問題」を抽出する
- ③ ②の問題について、課題改善のための取組を考える

次ページから、小学校国語を例に、①～③の分析の流れを示しています。

2－（２）分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

①成果と課題を洗い出す視点

・ **正答率**に着目する

まずは、正答率を県や全国と比較してみましょう。正答率の高さから、成果と課題を見付けていきましょう。



今年の3年生数学は、「図形」の領域の問題がよく解けていた。数学担当の〇〇先生の「図形」の授業に、授業改善のヒントがあるな。

・ 「**内容や領域**」，「**評価の観点**」，「**問題形式**」に着目する

成果や課題が、ある内容や領域、評価の観点、問題形式に特徴的に現れてくることもあります。そこに着目すると、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」，「弱み」を知ることができます。

・ **無解答率**に着目する

正答率が高くても、無解答率が高い場合があります。逆に正答率が低くても、無解答率も低い（子供たちが何かしら、記述しようとしている）こともあります。

・ **反応率**に着目する

解答類型から「反応率」を見てみると、子供たちの誤答の状況や躓きやすさが見えてきます。正答率が高くても、誤答が偏った反応を示している問題は、課題と捉えることができます。



小学校国語の「4二」の問題は正答率が高いけど、間違って「3」と解答している子供も多いな。指導の方法を見直す必要があるな。

2－（２）分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

②課題となる問題の抽出

- ・ **正答率**に着目する

正答率が6割未満で、全国平均を下回っている。

- ・ **反応率**に着目する

解答類型から、問題文の<条件>の内容（面ファスナーのよさ）を踏まえない誤答が45.6%である。

授業改善に生かすポイント

- 問題を実際に解いてみる。
- 提供されたデータの問題別(解答類型)調査結果と「解説書」の解答類型を参考に、子供の躓きがどこにあるか確認する。

R3年度 小学校6年生国語より

●小学校国語2四（本県28.3%，全国29.7%，－1.4）

- 四 相川さんは、『資料』を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているか。次の条件に合わせて書きましょう。
- 〈条件〉
- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中で使われ方について書くこと。
 - 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 五十文字以上、七十文字以内にまとめて書くこと。
- 【資料】の一部

（略）中でも大流行したのが、面ファスナーを使った運動グッズでした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめぐあいを調節することができるようが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。

また、しっかりとくつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ペンやスプーン、カメラやコンピュータなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっているのです。



面ファスナー

2－（２）分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

③課題改善の取組

① **目指す子供の姿**を共有する。

- ・その問題が解けることによって、どんな力が身に付くのか
「目指す子供の姿」を考え、共有する。

② **目指す子供の姿**に向けた取組を実践する。

- ・目指す子供の姿の育成に必要な**学習指導を、調査対象学年だけではなく全学年で行う。**

(例) 学習した漢字を、日記や作文など各教科や活動の場面で
日頃から意識的に使わせる。

(例) 全学調の問題を、該当学年の定着問題や定期考査の問題作成の参考とする。

※問題別調査結果を見ると、出題の趣旨や該当学年が分かります。

	まとめて書く			
2 四	面ファスナーに関する【資料】を読み、 面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中で どのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて 要約する		1・4 ウ

出題の趣旨が
分かります

該当学年が
分かります

問題別調査結果

[illegible]

2－（２）分析の方法③「同一集団の経年変化から授業改善へ」

◇同一集団(学校, 学年, 学級など)の正答率等の経年変化から授業改善へとつなげましょう。

※個人一人一人の経年変化から, 一人一人の課題克服に取り組みましょう。

【分析の視点】

①「伸び」に着目する

- ・現小学6年生が小学5年生の時の県学調と比べる。
- ・現中学3年生が中学2年生の時の県学調と比べる。
- ・現中学3年生(令和3年度)が小学校6年生の時(平成30年度)の全学調と比べる。

次ページからは, 県全体の結果を例に, 伸びに着目した分析を行い, 授業改善のポイントを示します。

2 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

- ・県学調の結果と比べる
- ・前回の全学調の結果と比べる



授業改善に生かすポイント

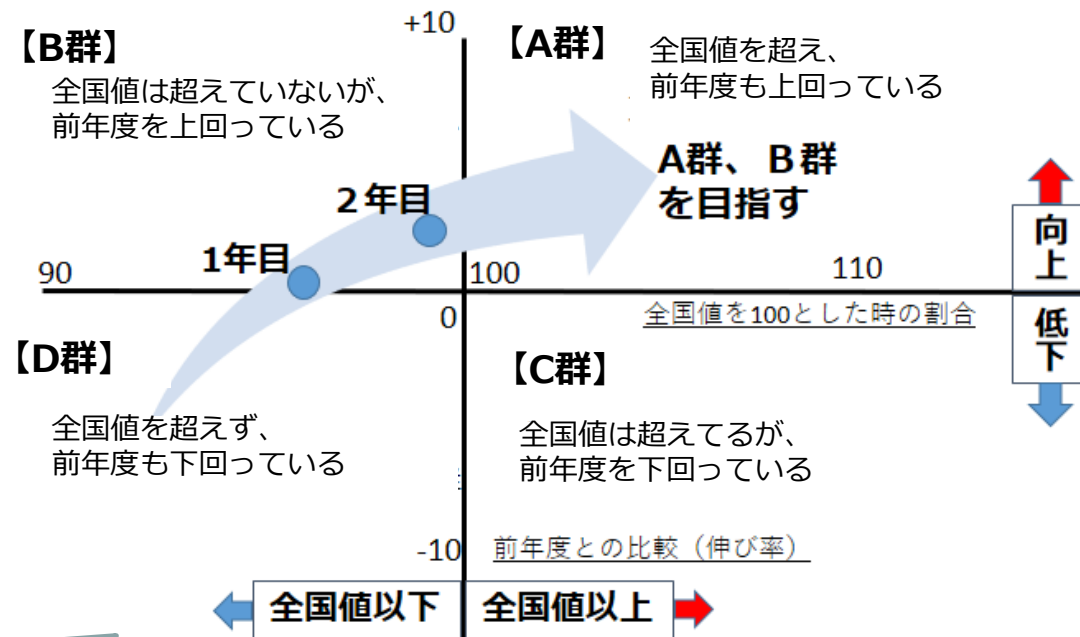
- 伸びの見られる教科や学年の取組を共有する。
- 伸びの見られなかった教科や学年について、これまでの取組を振り返り、改善を図る。

◇同一集団の伸びに着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類
について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。

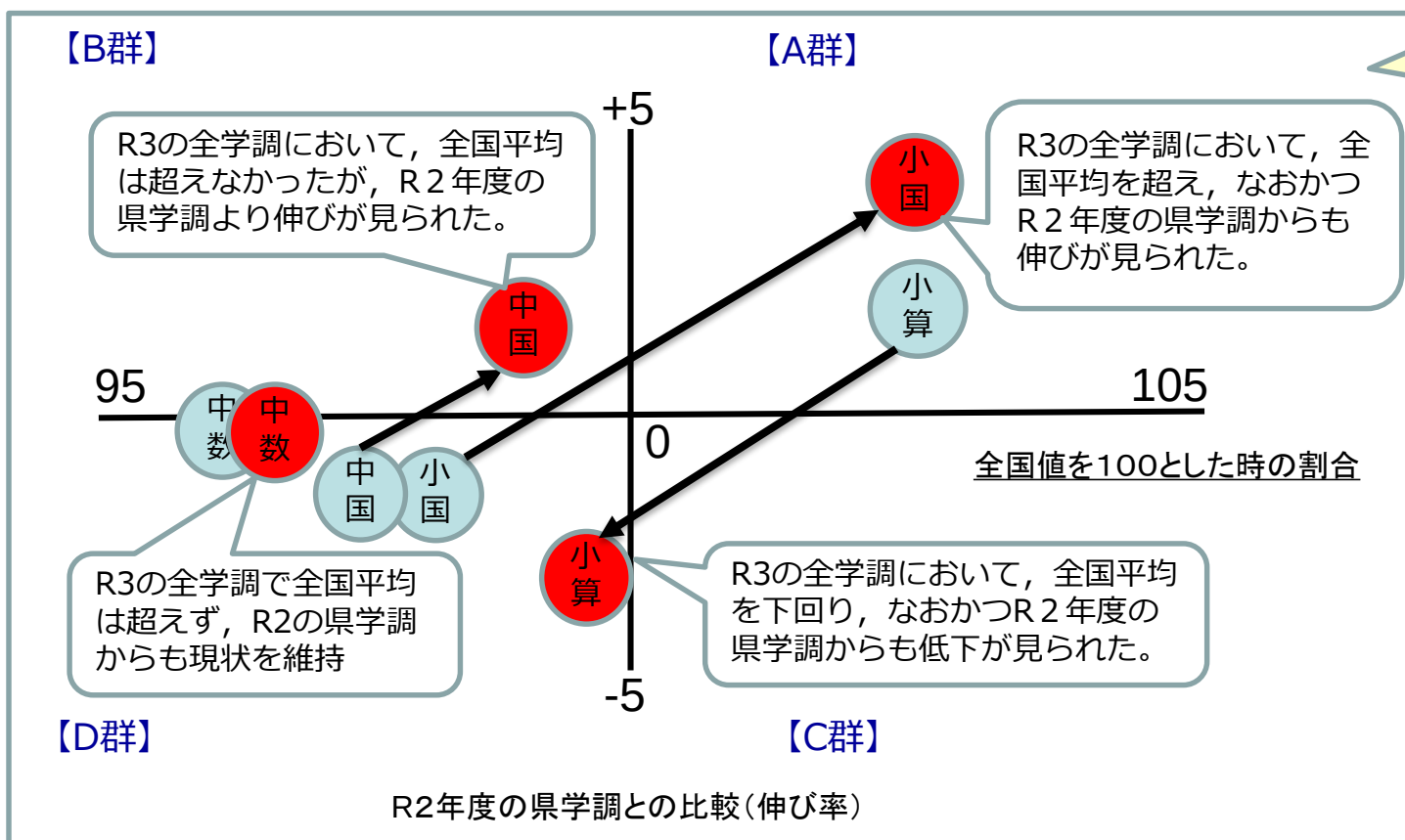


- ①令和2年度県学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに位置するか確認する。
- ②令和3年度全国学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに伸びたか確認する。

2 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇本県の ● R2県学調 → ● R3全学調の「伸び」



【A群】：小国
【B群】：中国
【D群】：小算, 中数

～分析～

算数、数学では伸びが見られず、R2県学調後の課題克服の取組が十分ではなかったと考えられる。

～今後の取組～

- ・中学校数学指導力向上研修会をオンラインで実施(10/5)
中学校の数学担当全員を対象

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なっています。

2－（２）分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇「伸び」の分類が難しい場合は、表で表す方法もあります。

本県のR2→R3の「伸び」

		国語 (全国平均を100としたときの県の割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの県の割合)	
		R2県学調 (小5時、中2時)	R3全学調 (小6時、中3時)	R2県学調 (小5時、中2時)	R3全学調 (小6時、中3時)
小学校	本県	97.8	102.6	102.6	99.7
	伸び		+4.2		-2.9
中学校	本県	97.3	99.1	96.2	96.2
	伸び		+1.8		+0.0

※ 教科全体の結果に限らず、内容や領域、評価の観点、問題形式など、各学校や各先生方が重点とされている内容の「伸び」について比べることができます。そこに着目していくと、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」、「弱み」を知ることができます。

2－（２）分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇前回の全学調と比べる（中学校３年生が、小学校６年生の時（平成３０年度）の状況と比べる）

※H30年度実施時は、A・B問題のため、A・B問題それぞれの正答率の平均を算出

	国語 (全国平均を100としたときの県の割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの県の割合)	
	H30全学調 (小6時)	R3全学調 (中3時)	H30全学調 (小6時)	R3全学調 (中3時)
本県	101.4	99.1	99.9	96.2
伸び		-2.3		-3.7

～分析～ 中学校３年生では、小学校６年生の時より低下しており、小学校と中学校の連携や中学校１年生での取組が必要である。

～取組～ 全ての学年において、その学年で身につけさせるべき学力を定着させるために、誰一人取り残さない学びの保障と教員一人一人の授業力向上（「熊本の学びアクションプロジェクト」）に取り組む

授業改善に生かすポイント

○中学校区全体での学びの保障, 小中連携した授業改善を図る。

3 実践編 「校内研修での活用」

◇これまでの分析の方法を基に, 全国学力・学習状況調の分析について, 校内研修を行いましょう。

- ① 「問題分析」から授業改善へ
- ② 「正答率等の結果」から授業改善へ
- ③ 「正答率等の経年変化」から授業改善へ

次のページからは, 校内研修のシートを掲載しています。そのまま印刷して活用していただくこともできます。御活用ください。

校内研修シート① 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を
分析してみましょう。

取り出した問題：教科() 大問()の()
※平均正答率 ：自校()%， 県()%

①「題材」や「配列」，「問い方」の工夫について，話し合みましょう。

②「解答類型」から，自校のこどもたちのつまづきを確認しましょう。

③ 過去の県学調の類似問題を探してみましょう。

・ () 年度の () 年生

(教科) 大問 () の ()

○学校総体で取り組む内容を
まとめましょう。

成果が見られた内容

○ 出題の趣旨や【問題番号】，自校や本県，全国の正答率，差などを書き入れましょう。

課題が見られた内容

○ 出題の趣旨や【関連番号】，自校や本県，全国の正答率，差などを書き入れましょう。

◇各学校でも、課題となった問題を抽出し、目指す子供の姿と指導のポイントを書き入れましょう。

課題となった問題

●問題番号(大問 の)
(自校 %, 本県 %, 全国 %)

目指す子供の姿

授業改善のポイント

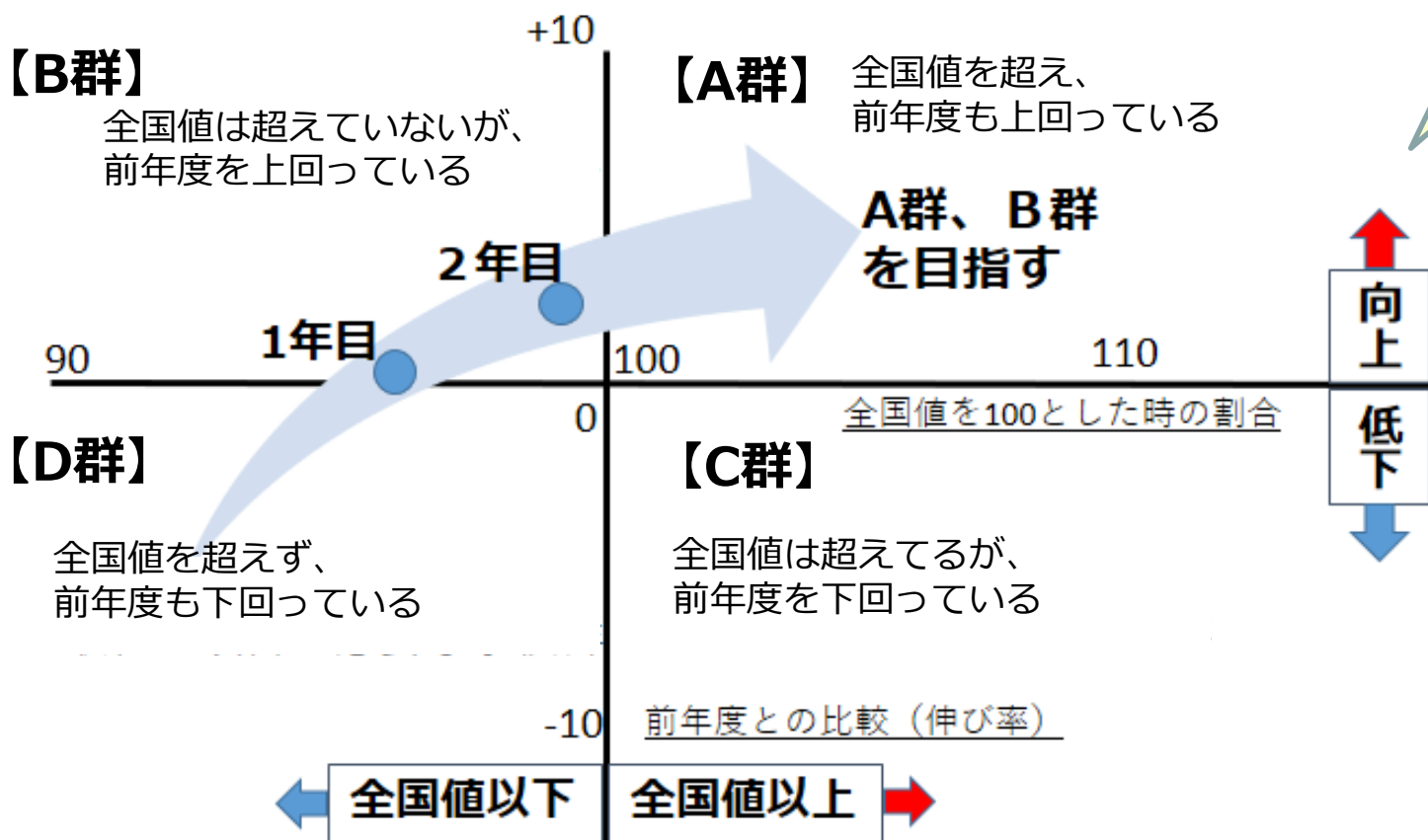
○

校内研修シート④ 「伸び」を分析する

※同一集団の伸びに着目した分類 「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



①令和2年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和3年度全学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

群

②「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

③今後の取組を話し合しましょう。

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

校内研修シート⑤「正答率等の経年変化から授業改善へ」

※今回の結果とR2年度の県学調の結果を書き入れましょう。（全国を100としたときの自校の割合など）

※教科全体の結果に限らず、学習指導要領の領域や評価の観点など、各学校や各先生方が重点とされている内容について比較してみましょう。

	比較する教科や内容（ ）	
	R2県学調	R 3 全学調
自校		
伸び		
本県		

～分析～



～今後の取組～

校内研修シート⑥「正答率等の経年変化から授業改善へ」（中学校）

※中学校3年生が，小学校6年生の時（平成30年度）の状況と比較してみましょう。

	国語 (全国平均を100としたときの割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの割合)	
	H30全学調 (小6時)	➡ R3全学調 (中3時)	H30全学調 (小6時)	➡ R3全学調 (中3時)
自校				
伸び				

※H30年度実施時は，A・B問題のため，A・B問題それぞれの正答率の平均を算出

